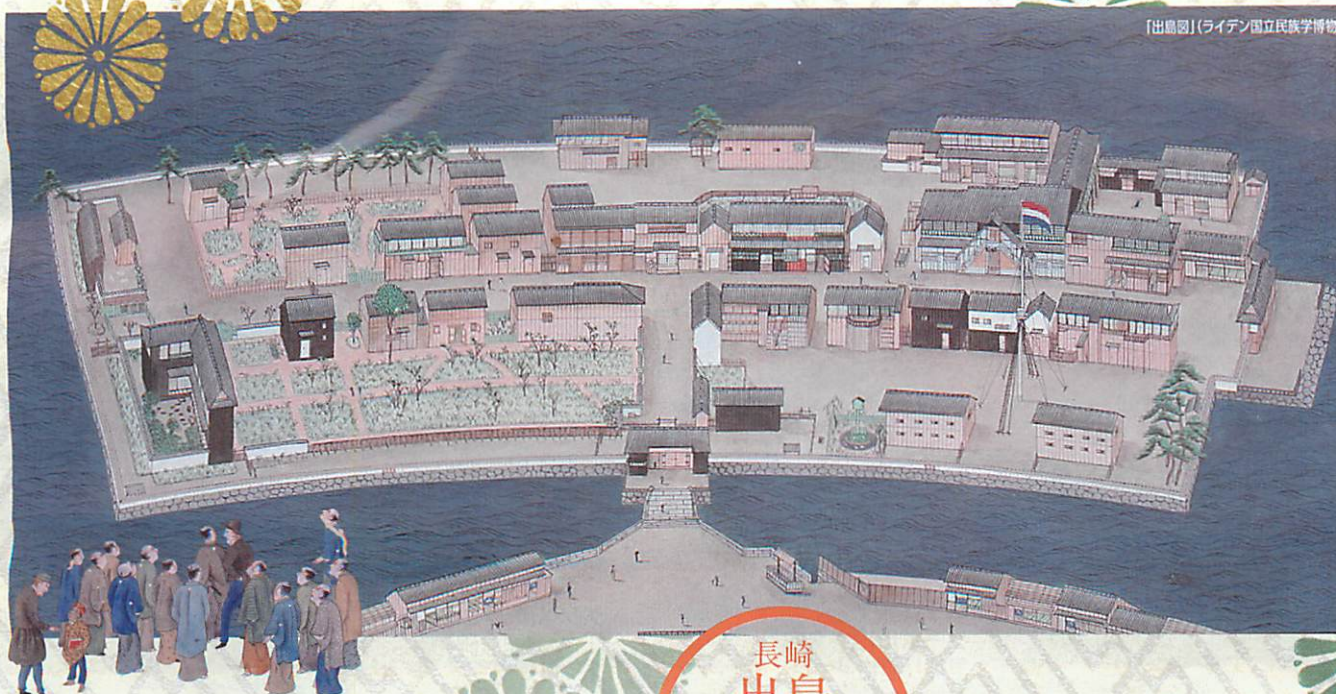


【出島図】(ライデン国立民族学博物館蔵)

# 出島

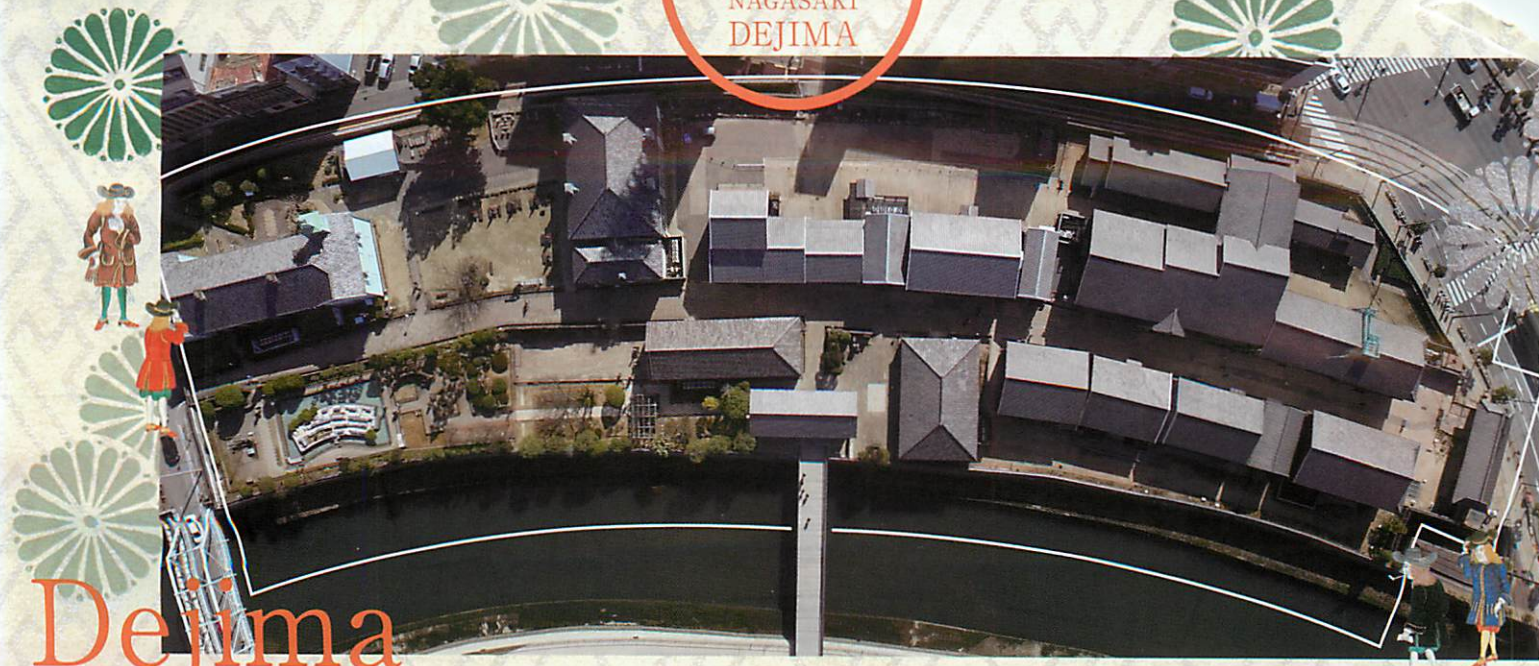
国指定史跡 出島和蘭商館跡



『蘭館略図』のうち「商品計置図」(部分) (長崎歴史文化博物館蔵)

長崎  
出島

NAGASAKI  
DEJIMA



# Dejima

Former Dutch Trading Post on Dejima (Nationally Designated Historical Site)

『漢洋長崎居留番巻』のうち「出島図」(部分) (長崎歴史文化博物館蔵)



## ● JR長崎駅からの交通アクセス

### 路面電車

長崎駅前から「崇福寺行き」に乗車し、

- 中央・表門メインゲート  
3つ目「出島」電停下車、徒歩4分。
- 西側・水門ゲート  
3つ目「出島」電停下車、徒歩1分。
- 東側・明治ゲート  
4つ目「新地中華街」電停下車、徒歩2分。

### 路線バス

【長崎バス】長崎駅前南口から「新地ターミナル行き」又は「中央橋行き」(但し「本原」経由除く)に乗車し、「出島表門橋」又は「中央橋」下車、徒歩1~2分。  
【長崎県営バス】長崎駅前南口から「大波止」経由のバスに乗車し「出島表門橋」下車、徒歩1分。

### 自動車

JR長崎駅から約6分「長崎自動車道長崎IC・ながさき出島道路」から約1分。  
※駐車場は付近の民間駐車場をご利用ください。

## お問い合わせ

### 出島総合案内所

〒850-0862 長崎市出島町6番1号  
TEL・FAX 095-821-7200

出島公式ホームページ  
<http://nagasakidejima.jp/>



● 開場時間 8:00~21:00  
(最終入場は開場の20分前まで)  
年中無休  
○ ベビーカー・車椅子の貸出あり



東側・明治ゲート

M-1

M-2

Ⅲ-6

Ⅲ-5

Ⅲ-4

Ⅲ-3

Ⅲ-2

B-1

B-2

シーボルト  
里帰り植物

ケンペル・ツェンペリー  
記念碑

出島の中に出島?  
1/15のミニチュアです。

シーボルトが残してくれた  
大切なモニュメントです。

表門

本来は川の中ほど

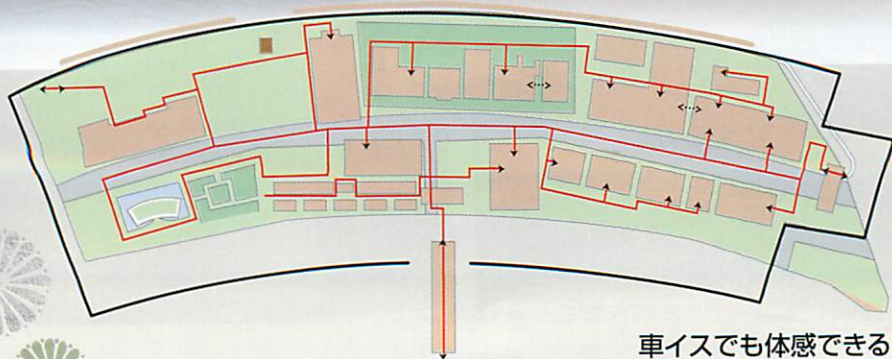
史跡を守るため、  
最先端技術の精  
交流を象徴する

1888年 中島川変流工事  
削られてしまいました。  
このため表門橋は石造りの  
復元橋ではなく、鉄製の近代橋。

約18m

中央・表門  
メインゲート

バリアフリー  
コース



車イスでも体感できるコース

第Ⅱ期事業 2006

Ⅱ-1 三番蔵



長崎  
管し  
ドネシ

Ⅱ-2 拝礼筆者蘭人



オラン  
シキ  
伝わ

Ⅱ-3 カピタン部屋



オラン  
には、  
宴会  
示を

Ⅱ-4 乙名(おとな)



出島  
を支  
介し

Ⅱ-5 水門



出島  
通っ  
込ん  
入、

## 鎖国期(1820年頃)の復元建物

第Ⅲ期事業 2016(平成28)年復元

Ⅲ-1 十六番蔵



かつての丁子蔵を企画展示室と収蔵庫としています。

Ⅲ-2 筆者蘭人部屋



出島が貿易や文化交流を通じて世界と日本各地とつながっていた様子をわかりやすく紹介しています。

Ⅲ-3 十四番蔵



かつては砂糖蔵でした。蔵の下の発掘遺構や出島築造の様子、出島と長崎の町をつなぐ橋を紹介しています。

Ⅲ-4 乙名(おとな)詰所



表門から出入りする人を監視するため出島の管理者である乙名が詰めていました。

Ⅲ-5 組頭(くみがしら)部屋



乙名の補佐役(組頭)の名前がついていますが、銅を計量したり、梱包したりしていた場所でした。

Ⅲ-6 銅蔵



出島の主要な輸出品である銅を保管している様子を再現し、銅を通じて日本・世界がつながっていた歴史を映像で紹介しています。



世界都市長崎誕生

- 1571(元龜 2)長崎開港、ポルトガル船が入港
- 1600(慶長 5)オランダ船リーフデ号  
臼杵(大分県)に漂着
- 1602(慶長 7)連合オランダ東インド会社設立

出島築造と日蘭交流

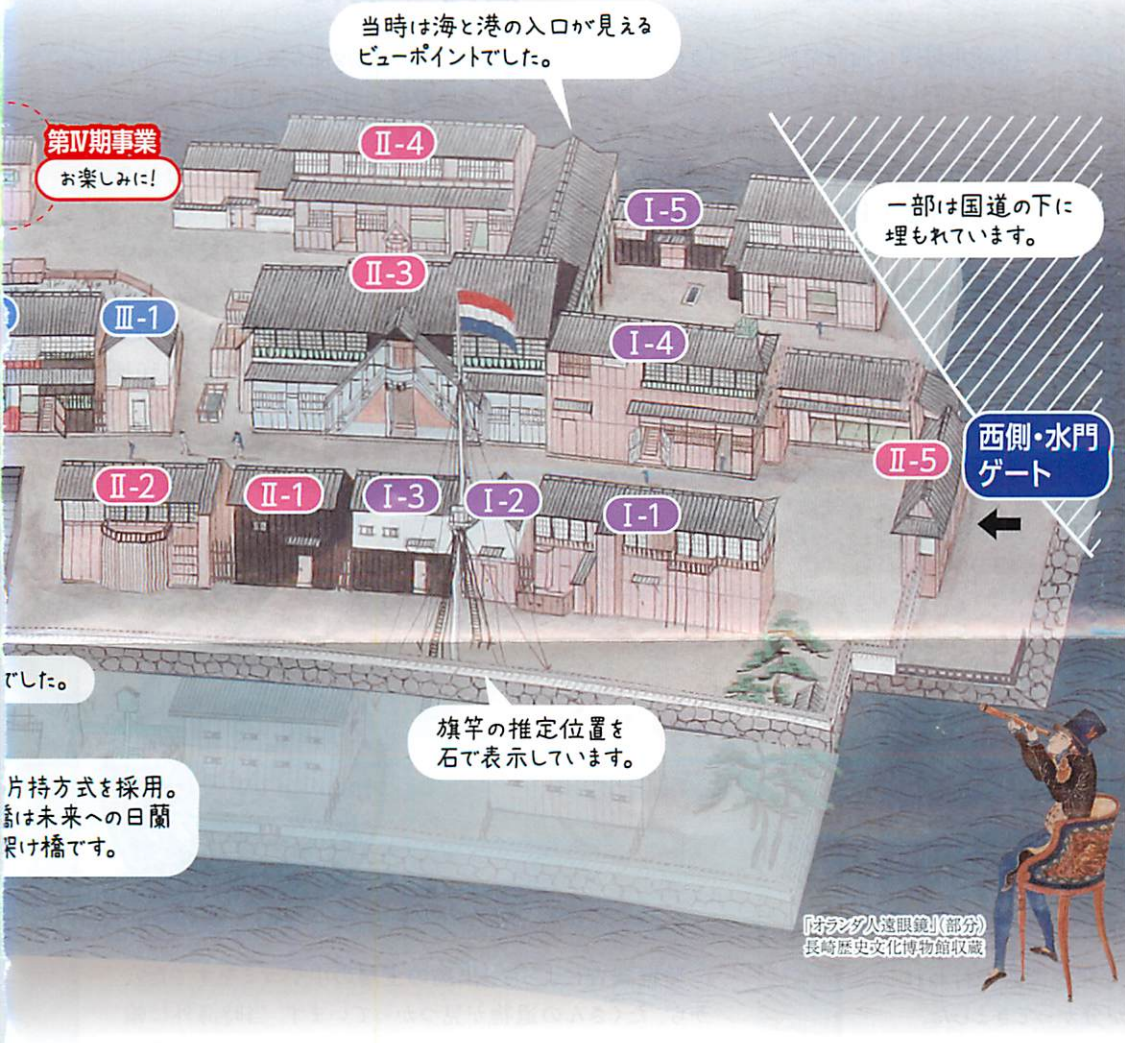
- 1634(寛永11)出島築造が始まる
- 1636(寛永13)出島完成、ポルトガル人收容
- 1637(寛永14)島原・天草一揆
- 1639(寛永16)ポルトガル船来航禁止
- 1641(寛永18)オランダ商館、平戸から出島に移転
- 1678(延宝 6)出島橋を木橋から石橋へ架け替え
- 1798(寛政10)出島大火
- 1799(寛政11)連合オランダ東インド会社解散
- 1808(文化 5)イギリス軍艦フェートン号事件
- 1809(文化 6)カピタン部屋再建
- 1844(弘化 元)オランダ国王、日本に開国を勧告
- 1855(安政 2)海軍伝習所開設
- 1859(安政 6)オランダ商館を廃止し、領事館を開設

出島の変遷

- 1866(慶応 2)外国人居留地に編入
- 1888(明治21)中島川変流工事により  
出島の北側を削除
- 1904(明治37)第2期長崎港湾改良工事により  
出島が内陸化
- 1922(大正11)国の史跡に指定

出島の復元

- 1951(昭和26)復元整備事業に着手
- 1990(平成 2)表門を復元
- 2000(平成12)ヘトル部屋など5棟復元  
南側・西側護岸石垣の一部を修復・復元
- 2006(平成18)カピタン部屋など5棟復元  
南側護岸石垣全体を修復・復元
- 2016(平成28)筆者蘭人部屋など6棟復元
- 2017(平成29)表門橋完成



当時は海と港の入口が見える  
ビューポイントでした。

第Ⅳ期事業  
お楽しみに!

一部は国道の下に  
埋もれています。

西側・水門  
ゲート

旗竿の推定位置を  
石で表示しています。

片持方式を採用。  
これは未来への日蘭  
架け橋です。

「オランダ人遠眼鏡」(部分)  
長崎歴史文化博物館収蔵

(平成18)年復元

の食文化に欠かせない砂糖を  
保いました。はじめは台湾、後にイン  
アから輸入されました。

部屋

ダ商館の首席事務員の住居。エ  
ルや顕微鏡等の珍しい西洋から  
た器具の仕組みがわかります。

ダ商館長(カピタン)の居宅。2階  
商館長の仕事ぶりやクリスマスの  
を再現した部屋、1階では体験展  
します。

部屋

の貿易やオランダ商館員の生活  
ていた出島乙名の仕事ぶりを紹  
います。

で取引される貿易品は、この門を  
オランダ船から荷揚げしたり積み  
りました。外から見て、右が輸  
が輸出の門でした。

第Ⅰ期事業 2000(平成12)年復元

I-1 一番船船頭部屋



2階では、オランダ船船長やオランダ商  
館員が暮らしていた部屋を再現してい  
ます。1階は倉庫でした。

I-2 一番蔵



砂糖などをおさめていました。出島の建  
物の復元方法や、発掘した基礎石を展  
示しています。

I-3 二番蔵



染料の原料となる蘇木などが収蔵され  
ていました。出島で取引された貿易品と  
貿易の仕組みを紹介しています。

I-4 ヘトル部屋



商館長次席(ヘトル)の住まいでした。  
内部は復元ではなく「ミュージアムショッ  
プ」やトイレとして活用しています。

I-5 料理部屋



オランダ商館員たちの食事を作る台所  
を再現しています。

- 男女 トイレ
- 車イス 対応トイレ
- オストメイト 対応トイレ
- 授乳室
- AED
- レストラン・カフェ
- コイン ロッカー
- エレベーター
- 案内所
- 休憩所

幕末(1860年代)の復元建物

B-1 旧石倉(考古館)



幕末の商社の石倉でした。日本最初の  
プロシアの商社も入り、坂本龍馬たち  
の海援隊とも取り引きを行いました。

B-2 新石倉(総合案内所、出島シアター)



出島の施設やイベントに関することはこ  
ちらでお尋ねください。世界とつながる  
出島の歴史を映像で紹介しています。

明治期の洋風建物

M-1 旧出島神学校



1878(明治11)年に建てられた、現存  
する日本最古のプロテスタント神学校  
です。

M-2 旧長崎内外クラブ



1903(明治36)年、T.グラバーの息子  
倉場富三郎の尽力により、長崎の外国  
人と日本人の社交場として建てられま  
した。現在は、レストランとして交流の場  
となっています。



## 出島築造と日蘭交流

1636（寛永13）年長崎の町の岬の先端に徳川幕府の命により、長崎の25人の有力な町人が出資して出島が築造されました。町の中で暮らしていたポルトガル人を収容し、貿易の掌握とキリスト教の広まりを防ぐ仕組みが完成しましたが、その翌年島原・天草一揆が起り、1639（寛永16）年ポルトガル船の来航は禁じられました。そのうち当時平戸で貿易をしていたオランダの商館が出島に移され、以後、幕末まで日蘭交流は続き、日本とヨーロッパ間の唯一の貿易地、また蘭学を初め日本の近代化に必要な情報の発信地として、出島は重要な役割を果たしました。

## 出島の変遷

1859年以降は通商条約に基づき横浜や函館でも海外貿易が行われるようになり、長崎においても貿易の中心は出島からT.グラバーやF.リンガーたちが活躍した現在のグラバー園周辺の外国人居留地へと移っていきました。こうして歴史的役割を終えた出島は中島川の変流工事や、周囲の埋め立て等により次第に都市の中に埋没していき扇の形も失われていきました。時代は大正に移り1922（大正11）年、出島は和蘭（オランダ）商館跡として国指定史跡に指定されました。

## 出島の復元

第二次世界大戦後間も無い1951（昭和26）年、出島の復元計画が動き出しました。もともと町人たちにより造られた出島は民間の所有でした。その公有化に長崎市は50年の歳月をかけ取り組みました。ようやく第Ⅰ期復元整備事業としてヘトル部屋など5棟が2000年に、第Ⅱ期としてカピタン部屋など5棟が2006年に完成し、第Ⅲ期として更に6棟の建物が建ち並び2016年時点で16棟の19世紀初頭の町並みが出島に甦っています。

### 発掘調査



十四番蔵跡礎石

出島では、約半世紀に及ぶ地道な発掘調査が行われ、掘り出された結果から、様々なことが分かってきました。

初めの頃は、周囲が埋め立てられ、陸続きになった出島の範囲を明らかにする調査、1996年以降は、建物を復元するためにその基礎的な調査を行うことが目的とされました。土の中からは、オランダ商館員の住居や蔵の礎石が見つかり、その成果は建物の復元に活かされています。また出島の護岸石垣も見つかり、海に浮かぶ出島の姿が明らかになりました。

### 発掘遺物



染付英髷手花鳥文  
VOCマーク入り大皿（出土品）

発掘調査によって、出島の土層の中やゴミをすてた穴から、たくさんの遺物が見つっています。当時海外に輸出された伊万里（肥前磁器）の欠片やオランダ船が運んだ西洋のガラスや陶器片、アジアの陶磁器など、貿易に関係する資料が出土しています。また、出島の建物や生活の様子が分かる瓦やレンガ、クレーパイプ、酒瓶、食べたあとに捨てた動物の骨や貝殻なども多数出土し、出島での暮らしぶりを知ることができます。これらの出土品の一部は、旧石倉に展示しています。

### 復元建物



カピタン部屋外観

19世紀前半の出島のオランダ商館員の住居、貿易品を保管する土蔵、日本人役人の詰所が復元されています。

これらの建物は、発掘調査等で判明した位置に、オランダ・ライデン国立民族学博物館に残る建物模型、絵図、古写真、文献、絵画資料などを基に設計され、伝統工法を用いて建てられました。まさに江戸時代の出島がここによみがえりました。

### 生活展示



カピタン部屋内部

カピタン部屋、一番船船頭部屋、料理部屋では、文献や絵画資料を参考に19世紀前半の室内の様子を再現し、オランダ商館員の生活を紹介しています。

オランダ商館員は、家具や生活用品を自分自身でそろえ、バタビアからオランダ船で出島へ運び、使用していました。

展示している家具や調度品、生活用品は、オランダや日本で購入したものや、博物館の資料を参考に製作したものです。